

今年も、パイナップルの収穫の時期がやってきました！ 西表島パイラッドファームより、パイナップル全国発送致します。

西表島パイラッドファームって？

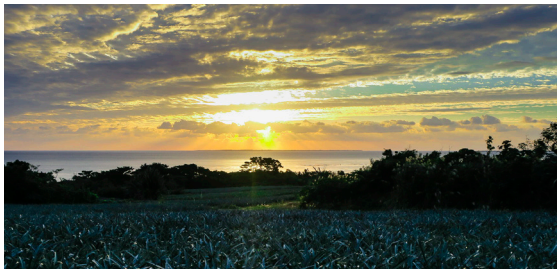
西表島は、約90%が亜熱帯の自然林で覆われ、イリオモテヤマネコなど15の国指定天然記念物を有する自然豊かな島です。当農園の面積は、東京ドーム15個分あり、パイナップル・マンゴーの栽培を行っています。農場内には小さな加工所があり、採れたての果実を使った加工品・ドリンク、お菓子なども作っています。

西表島パイラッドファーム スタッフ一同



パイナップルのおいしさの秘密

当農園「パイラッドファーム」は、南東向きの斜面を有しており、傾斜地に植えられたパイナップルには、日の出とともに陽光がさんさんと降り注ぎ、年間を通して気温の高い時間が長く続きます。この事は、パイナップルの成長にとって優位に働くのです。また、パイナップルの成長初期段階においては、水がとても重要です。とは言え、根のまわりに滞水しない状態が好まれます。畑の土は、傾斜によって排水性が高いだけでなく、酸性土壌のサラサラとした砂と、小さな瓦礫のような赤土で構成される為、土の中に適度な隙間ができ、根が伸びて行きやすい環境となっています。このように、農園の畑にはパイナップルが好む条件が揃っているのです。



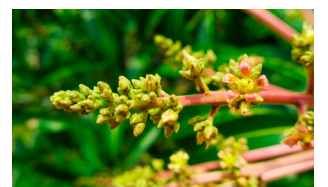
さて、皆さんはパイナップルの栽培は難しいとお考えではないでしょうか？実は、あまり難しいテクニックは必要ではないのです。然るべきタイミングで肥料を与え、雑草に覆われてしまわぬように草を抜き、夏の強すぎる日差しを防ぐ為に日よけネットを被せる。至ってシンプルな作業を、毎日コツコツと続ける・・・「継続は力なり」。そして、やるべき事をやり終えた後はと言うと・・・「果報は寝て待て」。最終的に美味しいパイナップルは、この土地が作ってくれるのでした。



マンゴーハウスのビニール張り



マンゴーの蕾が膨らみ始めました。もうすぐ春の到来です。この時期に行われる農園の一大行事が、マンゴーハウスのビニール張りです。マンゴーの花が、雨に濡れると受粉しずらく、着果が難しくなる為、ハウスをビニールで覆うのです。農園では普段、二つのチームに分かれて、マンゴーとパイナップルを育てています。しかし、ビニールハウスのビニール張りは、マンゴーチームとパイナップルチーム合同での作業となります。作業は、良く晴れた風のない日を選んで行われます。この日は、日差しが強く、太陽の光がビニールに反射して、みんなの顔はうっすらと赤く日焼けしていました。慣れない高い場所での作業で、程良い疲れはありましたが、きれいにビニールが張られたハウスを見ると、ちょっとした達成感が込み上げました。さあ、これからマンゴー栽培は次の段階に入ります。混み合った花の吊り上げ、果実肥大の為の摘果、選別。日光をまんべんなく当てる為の果の吊り上げ。日焼け防止の袋かけ。収穫までの長い道のりが始まりました。



島産 胡椒の木

八重山のそば屋で見かけるお馴染みの香辛料と言えば・・・「ピパーツ」と呼ばれる島産の胡椒。胡椒と言っても、シナモンに似た甘い香りと、ピリッとした辛みが後から効いてくるのが特徴です。香辛料の「ピパーツ」とは、写真のヒハツモドキの実を、乾燥させ炒って粉にした



ものです。島では、民家の軒先など、各家庭で壁面緑化を兼ねて育てられているのを良く見かけます。特に手をかけているわけではないのですが、グングンと蔓を伸ばして行って壁を這って吸着します。剥がすのが難しいくらい張り付くのです。写真のヒハツモドキも、手入れもしないで放置してあったにも関わらず、見事に繁茂しています。一目瞭然で、生命力の強さを感じられたのではないのでしょうか？この「ピパーツ」。

最近では、地元の新聞に「ピパーツの実買います！」という広告が出るほど、人気の香辛料となっています。原料不足の為、農作物として大量出荷しようと沢山植えると、とたんに育てるのが難しくなるそうです。手入れがいらなそうと思っただけですが・・・なんとアマノジャクな植物なのでしょうね！西表島では、祝いや地域行事の際、巨大な鍋で山羊や猪の汁を作るのですが、ケモノの臭いが強い時など、近所の家の軒先に繁殖している、ヒハツモドキの葉っぱを数枚いただき、鍋に入れて調理します。その他にも、ジューシー（沖縄の炊き込みご飯）や、八重山かまぼこの材料に使われていて、とても身近な植物なのです。八重山へお越しの際は、是非、ヒハツモドキを探してみてくださいね。



あとがき

今年、西表島の冬は暖かく過ごしやすい日が続きました。最低気温が15度を下回る日が少なかったように感じます。「そんなに暖かいなら、春の喜びも少ないでしょう！」と、寒い地域の方々からは言われそうですが、そんな事は全くありません。西表島の冬はどんよりと曇った日や雨の日、北風の強い日が多く、カラッと晴れる日が少ないのです。また、湿度も高く、布団や洗濯物を干す事に困る毎日です。わかりやすく表現するなら、モノクロの世界が広がっているのです。これが、4月になるとガラリと景色が変わり、天気安定した日が多くなります。いよいよ春の到来です。海の青さ、山の深緑、周辺に咲く花々など、島中の景色が輝度の高い色合いとなります。島に生息する野鳥や蝶が、慌ただしく飛び回り、外に出て散歩するのが楽しい季節となるのです。束の間の春を楽しむと、島は真夏へと様変わります。日差しの強さは、ほぼ赤道直下。こうして島時間が流れて行くのです。

